

関東地方整備局 同時発表

平成29年11月8日  
道路局道路管理課

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

## 道の駅「ひたちおおた」において実証実験をスタート ～高速バスの貨客混載事業との連携等も実施～

道の駅「ひたちおおた」(茨城県常陸太田市)において公募型※  
としては全国で初となる実証実験を11月18日(土)から開始します。

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの2020年までの社会実装を目指し、全国13箇所で、順次、実証実験を行うこととしております。

今般、公募型※としては全国で初となる実証実験を11月18日(土)から11月25日(土)までの間、道の駅「ひたちおおた」(茨城県常陸太田市)において実施します。実験では高速バスの貨客混載事業との連携等も行います。

実証実験の開始にあわせて、11月18日(土)に実験開始式を以下の通り行いますので、お知らせいたします。(概要は添付資料をご確認ください。)

※地域からビジネスモデル等の提案を募集し選定。主にビジネスモデルを検討。

### [実験開始式]

- 日時 : 平成29年11月18日(土) 11時00分から
- 会場 : 道の駅「ひたちおおた」イベント広場  
(茨城県常陸太田市下河合町1016-1)
- 主催 : 道の駅「ひたちおおた」を拠点とした  
自動運転サービス地域実験協議会
- 概要 : 挨拶、実験概要説明、実験車両説明、  
テープカット、実験車両試乗 等

※報道機関の方で取材、実験車両への試乗をご希望の方は、11月17日(金)17時までに、  
以下担当へご連絡ください。

関東地方整備局常陸河川国道事務所(TEL:029-240-4061 担当:高森、岩崎)

※本実験は、内閣府戦略イノベーション創造プログラム(SIP)のプロジェクトの1つとして実施するものです。

### 問い合わせ先

国土交通省 道路局道路管理課 ITS推進室 馬渡・宮永(内線:37453、37462)  
(代表)TEL:03-5253-8111 (課直通)TEL:03-5253-8484 FAX:03-5253-1617

## 実験開始式の概要

- 日 時 : 平成29年11月18日(土)11時00分から
- 場 所 : 道の駅「ひたちおおた」イベント広場(茨城県常陸太田市下河合町1016-1)

### ○概 要

受付開始 : 10時30分から

式典開始 : 11時00分から

- (1)主催者側挨拶
- (2)来賓挨拶
- (3)実験概要説明
- (4)実験車両説明
- (5)記念撮影、テープカット
- (6)実験車両試乗

式典終了 : 12時15分頃

※ 式典終了後、事前に登録している報道機関、地域の方々が実験車両に試乗出来ます。

※ 報道機関の方で、取材・実験車両への試乗をご希望の方は、11月17日(金)17時までに常陸河川国道事務所(担当:高森、岩崎)までご連絡下さい。

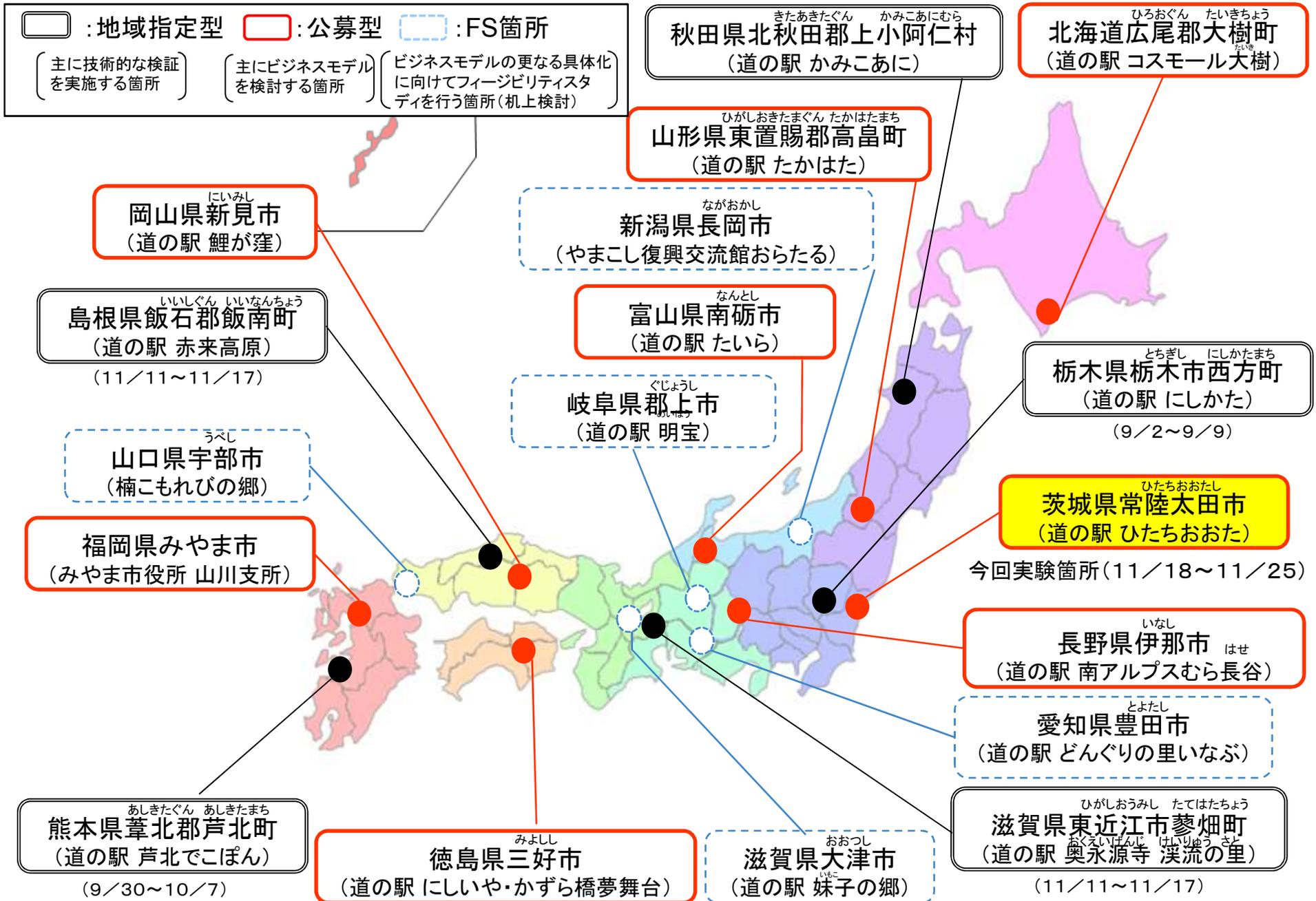
TEL:029-240-4061



※ 式典当日は道の駅周辺は、大変混み合うことが予想されます。

※ 報道機関の方々には、国道349号拡幅予定地の臨時駐車場のご利用をお願いします。道の駅「ひたちおおた」駐車場については、一般利用者を優先させて戴きますのでご理解とご協力をお願いします。

# 平成29年度 実証実験箇所 位置図



バスタイプ	乗用車タイプ
<p><b>①株式会社ディー・エヌ・エー</b></p>  <p>「レベル4」(専用空間) 「車両自律型」技術 (GPS、IMUにより自車位置を特定し、規定のルート进行 (点群データを事前取得))</p> <p>定員: 6人(着席) (立席含め10名程度) 速度: 10km/h程度 (最大:40km/h)</p>	<p><b>③ヤマハ発動機株式会社 [今回使用]</b></p>  <p>「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道)) 「路車連携型」技術 (埋設された電磁誘導線からの磁力を感知して、既定ルートを走行)</p> <p>定員: 7人 速度: 自動時 ~12km/h 程度 手動時 20 km/h未滿</p>
<p><b>②先進モビリティ株式会社</b></p>  <p>「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道)) 「路車連携型」技術 (GPSと磁気マーカ及びジャイロセンサにより自車位置を特定して、既定のルートを走行)</p> <p>定員: 20人 速度<sup>※</sup>: 35 km/h 程度 (最大40 km/h)</p>	<p><b>④アイサンテクノロジー株式会社</b></p>  <p>「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道)) 「車両自律型」技術 (事前に作製した高精度3次元地図を用い、LIDARで周囲を検知しながら規定ルートを走行)</p> <p>定員: 4人 速度<sup>※</sup>: 40km/h 程度 (最大50 km/h)</p>

GPS : Global Positioning System, 全地球測位システム  
IMU : Inertial Measurement Unit, 慣性計測装置

※速度は走行する道路に応じた制限速度に適應

# 道の駅「ひたちおおた」自動運転実証実験ルート

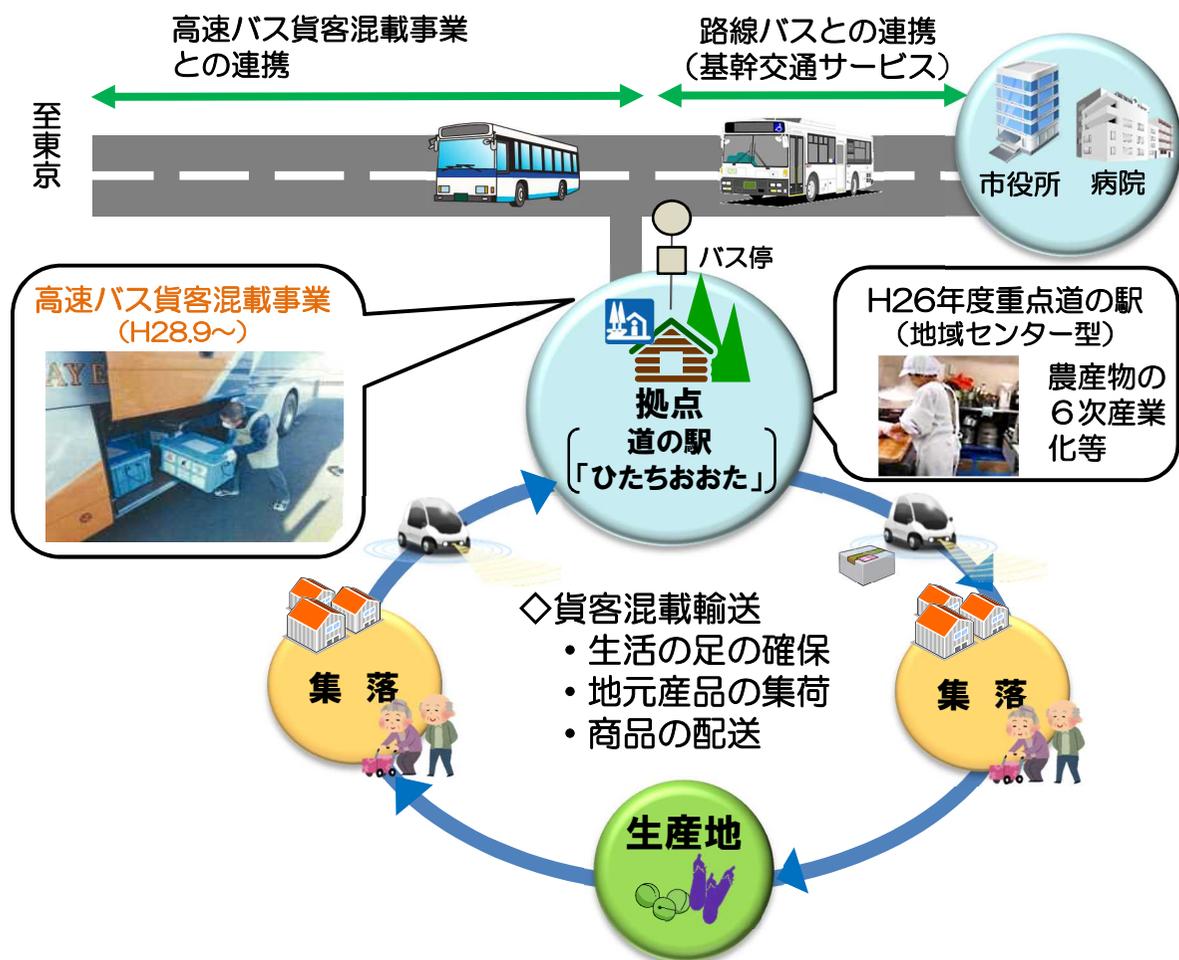


# 道の駅「ひたちおおた」における主な検証項目

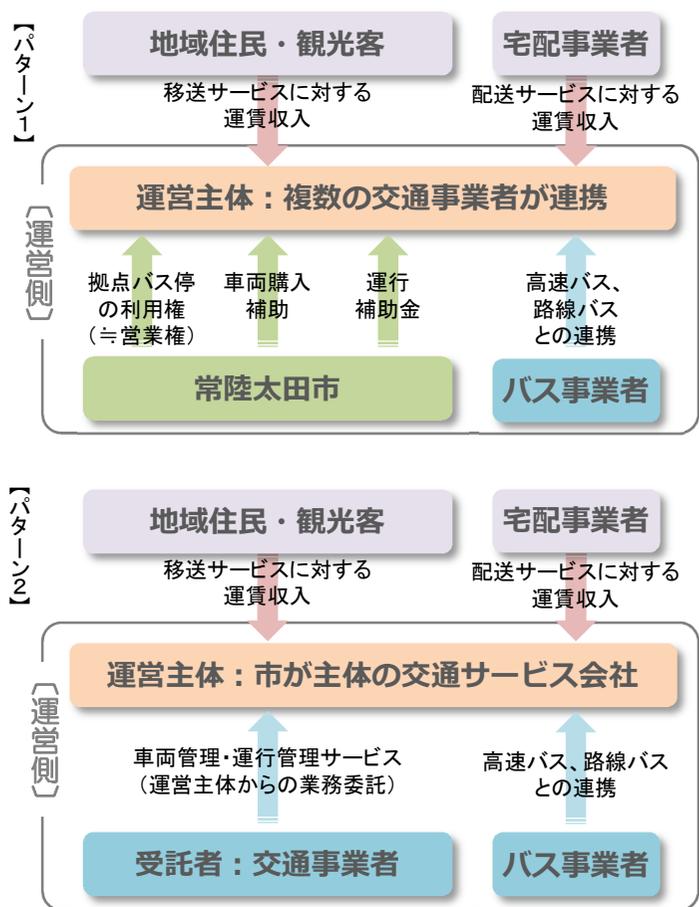
項目	実験において検証する内容	
①道路・交通	○相互に円滑な通行のための道路構造の要件 ・後続車の追い越しを考慮した幅員 ・待避所、停留所の設置	○自動運転に必要となる道路の管理水準 ・植栽の繁茂 ・狭小幅員
②地域環境	○降雨による、前方カメラの検知能力	
③コスト	○電磁誘導線の整備、維持管理コスト	○車両の維持管理コスト
④社会受容性	○自動運転技術への信頼性、乗り心地	○運転手不在に対する心理的影響
⑤地域への効果 (ビジネスモデルの 検討を含む)	○円滑な地域内物流の支援 ・高速バス(貨客混載)との連携による農作物の集荷・配送実験 ・道の駅への宅配便の集荷・発送実験 ○高齢者の外出機会の増加 ・高速バス・路線バスとの乗り継ぎ利便性 ○運営主体のあり方 ・自治体や交通事業者等の役割分担 ○採算性確保の方策 ・将来の利用ニーズ(支払意思額、求めるサービスレベル等) ・農作物の出荷機会の拡大可能性 ・将来の地域の協力体制(企業支援等) ○他事業との連携 ・実験参加者の将来参入ニーズ(高速バス、宅配業者) ・新たな連携先のニーズ	

- 高速バス等の広域交通と連携しながら、自動運転で地域内の生活の足や物流を確保
- 既存の道の駅からの高速バスを活用した貨客混載事業(地元農産物の出荷)と連携

## <サービスイメージ>

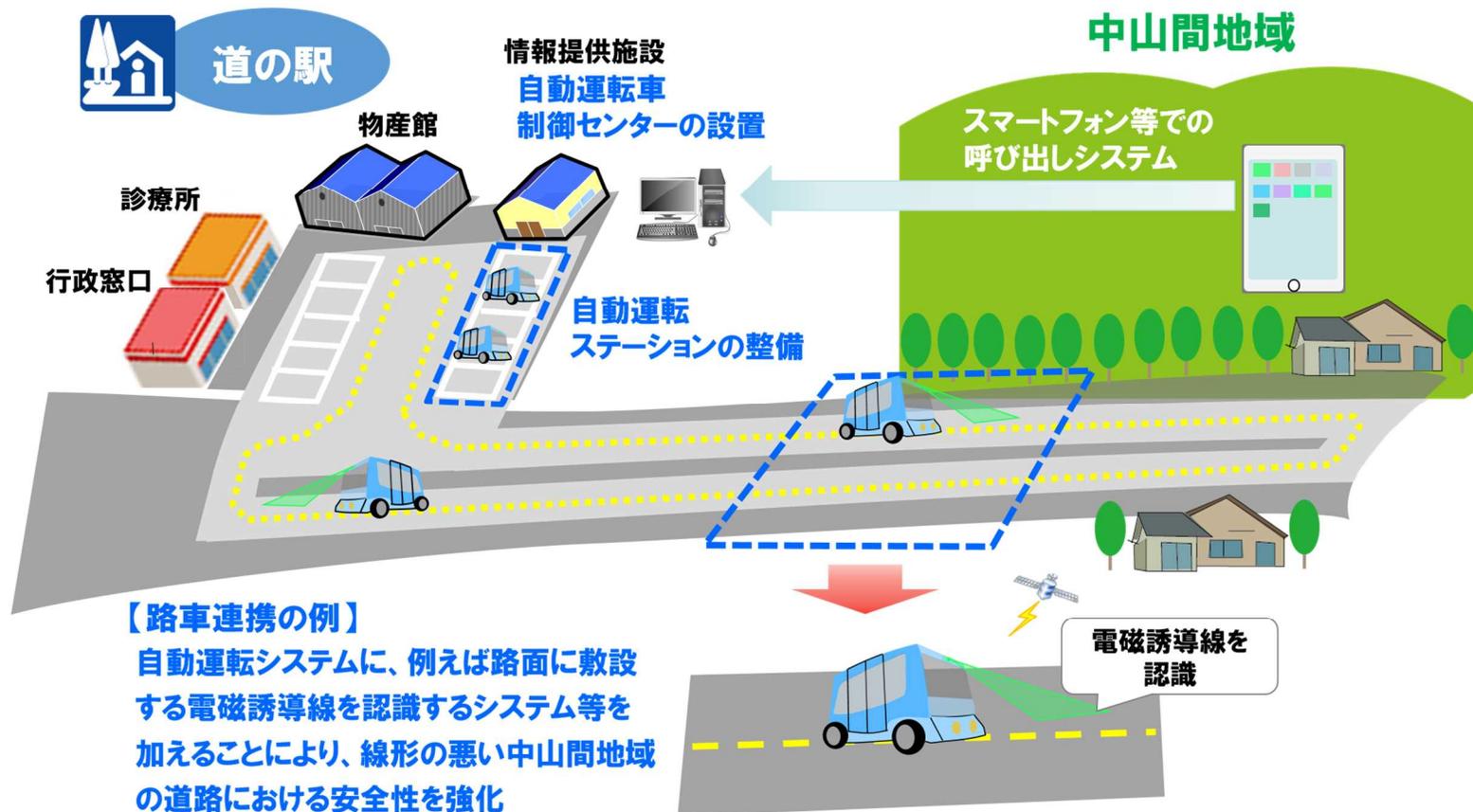


## <ビジネススキーム>



※企画提案書をもとに国土交通省作成

● 高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



物流の確保  
(宅配便・農産物の集出荷等)

貨客混載

生活の足の確保  
(買物・病院、公共サービス等)

地域の活性化  
(観光・働く場の創造等)

全国13箇所で順次実験開始(9/2~)